

登山者のみなさんへお願い

安全な登山を楽しむため、美しい自然を保護するために、次のルールを必ず守って下さい。

●動植物を大切に
全ての花木・植物
(実、落葉、落枝を含む)
の採取、また昆虫、鳥、動物の
捕獲はできません。
また土や石、岩等の採取も
禁止されています。



●十分な準備と装備を
登山道もかなり険しく、
また気象も変わりやすい山です。
安易な登山は事故のもとです。



●ごみは必ず
持ち帰りましょう
空缶、紙くず、自分のごみも
他人のごみも、ごみは必ず
持ち帰りましょう。



●キャンプはできません
キャンプは禁止されています。
また、鳥や動物保護のため
ラジオの音や大声等も
つつみましょう。

●たき火は禁止です
たき火、たばこの
投げ捨ては厳禁です。
吸い殻は確実に消して
持ち帰ってください。



ここは国立公園です。来たときよりも美しく!

お問い合わせは

雲仙観光協会 TEL0957-73-3434

URL : <http://www.unzen.org/>

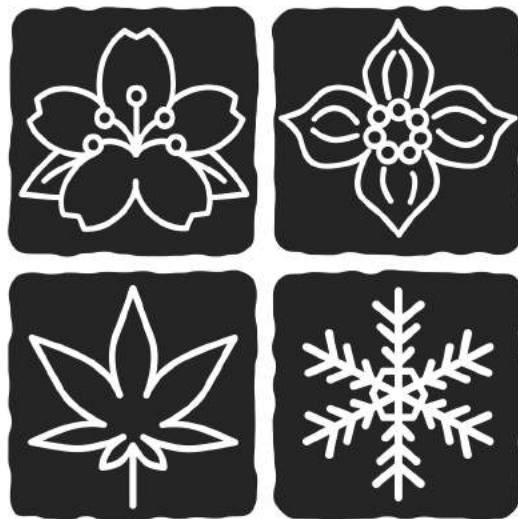
国立公園

雲仙 登山ガイド

UNZEN CLIMBING MOUNTAIN GUIDE

妙見・国見・普賢岳

普賢・国見・妙見・九千部などの
峰々からなる雲仙岳は、古来から
その美しい自然と豊富に湧き出す温泉が
人々に愛され、昭和9年(1934)
日本最初の国立公園に指定されました。



平成2年(1990)11月には、雲仙の主峰
普賢岳が198年ぶりに噴火し
新たに標高1486mの平成新山が誕生。
大自然の底知れない力と美しさを
教えてくれる、雲仙の山々。
もっともつとふるさとの自然を
学び、敬い、親しみ、楽しんで
未来へ大切に引き継いでいきましょう。

雲仙の四季

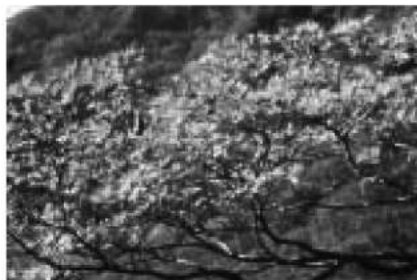
普賢岳・国見岳・妙見岳一帯は特別保護区に指定され、美しい植物、珍しい鳥獣類など、豊かな自然が大切に守られています。からやかな小鳥達のさえずり、清楚で可憐な花々。目も奪われるほどの新緑、そして紅葉のまぶしさ。四季折々に奏でられる大自然のハーモニーをごゆっくりとお楽しみください。



春 何といても仁田峠一帯のツツジ。10万本のミヤマキリシマの群落、ピンクのじゅうたんを敷き詰めたように山腹を覆います。ミヤマキリシマは花や葉が小型で、赤紫や朱赤、淡紅などさまざまな色の花を咲かせます。見頃は例年5月中旬頃。
このほか淡紫色のサイゴクミツバツツジや、雲仙ではもっとも遅く咲くヤクシマホツツジなどがあります。



夏 平地の暑さを忘れさせるような雲仙。涼やかな森のあちこちに、小鳥のさえずりを聴きながらの散策は街の喧騒を忘れさせてくれます。主役の夏鳥達は、確認されているだけで30種。なかでもオオルリやホトトギス、ヤブサメ、キビタキといった野鳥は普賢岳一帯に高密度に生息繁殖しています。
また初夏には、妙見岳や国見岳の登山道からヤマボウシの白い花が眼下一面にひろがります。



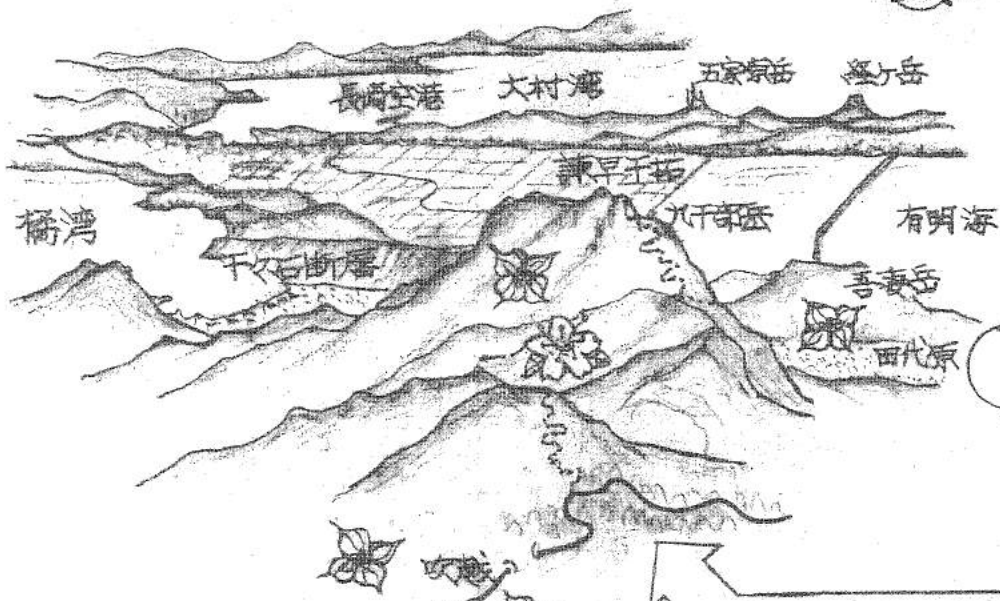
秋 鮮やかに染め上げる雲仙の紅葉は、落葉広葉樹の原生林で仁田峠から普賢岳一帯にひろがります。
コミネカエデ、ヤマボウシ、シロドウダンなど、約100種類の植物が10月下旬から11月上旬にかけて鮮やかに色づきます。
秋はまた旅鳥の渡来シーズン。色づいた樹々の合間に、エソビタキやコマドリ、コムクドリなどの可愛い姿に出合えるかも知れません。



冬 厳しい寒さが訪れると、妙見岳・普賢岳一帯は見事な霧氷の輝きに包まれます。
霧氷は、1、2月を中心に11月下旬から3月中旬までがシーズンですが、0℃以下に冷えた霧や雲が風で木の枝にぶつかった瞬間に凍り付くもので、しかも風があるという気象条件が重なった時に限り見ることができます。地元では親しみをこめて「花ぼうろ」と呼んでいます。

雲の上の仙人下界を眺める

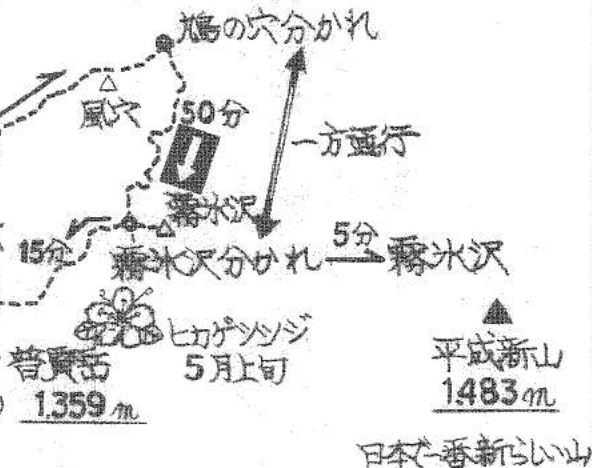
太陽が輝くとき 雲が流れるとき
いつでも ときを忘れさせる
四季折々 雲仙は楽しい



妙見・国見・普賢岳登山ルート見取図

雲仙三山 登山おすすめコース

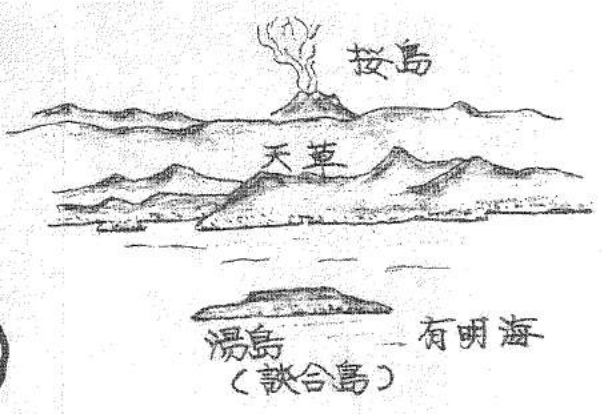
仁田峠 → 妙見岳 → 国見岳 →
鬼人谷分かれ → 鳩の穴分かれ →
霧氷沢 → 普賢岳 → 紅葉茶屋 →
あざみ谷 → 仁田峠



紅葉茶屋
急な登りに備えひと休み
近くに小鳥の水呑場あり
お静か！

※ 所要時間は、およそ
※ 見ごろは、気候で前後する
※ 登山道の一方通行に注意

普賢岳より桜島が見える



地図で普賢岳 → 湯島 → 桜島
を結んでみて！

左側に韓国岳・高千穂が
見える

